

2025（令和7）年度修士学位論文等の提出について

標記のことについて、2026年3月修士課程修了予定者は、次の1. 2. のいずれかの手続きを必ず行うこと。

1. 修士学位論文を提出する者

提出物	提出期間・方法等
「修士学位論文題目」 「宣誓書」 「学位記記載事項等確認」 「承諾書」	2025年11月25日(火)10:00～12月2日(火)16:30【期限厳守】 ・UTOLにWEB入力すること。 ・指導教員の承認を得た上で、提出を行うこと。 ・「修士学位論文題目」は、指導教員の十分な指導を受け、確定したものについて、提出を行うこと。 －今回提出後、「修士学位論文題目」を変更することはできないので、十分注意すること。 －今回提出を行う「修士学位論文題目」と、以降提出を行う「修士学位論文」「修士学位論文要旨」は、一字一句、完全に同一の表記とすること（和訳を含む）。
「修士学位論文」	2026年1月5日(月)10:00～1月8日(木)16:30【期限厳守】 ・電子ファイル（PDFファイル）をUTOLにアップロードすること。
「修士学位論文要旨」	2026年1月5日(月)10:00～1月9日(金)16:30【期限厳守】 ・電子ファイル（PDFファイル）をUTOLにアップロードすること。

2. 修了しない者

提出物	提出期間・方法等
下記のうち該当する書類 「在学期間延長願」 「休学願」 「退学願」	在学生向けWEBサイトに後日掲載予定の通知に従い、在学期間延長願、休学願、退学願のいずれかを提出すること。期日や詳細はWEBサイトに掲載する通知を確認すること。 https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/category/cat_class/

2025年6月27日
教育学研究科学生支援チーム

提出方法等の詳細について

(1) はじめに

- ・各提出期限は、厳守となる。
- ・各提出物について、提出期限後の差替・修正等は一切認められない。
- ・「修士学位論文」を作成するにあたっては、次の2点を必ず熟読すること。
 - ① 信頼される論文を書くために第4版（東京大学大学院教育学研究科）
https://www.p.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2024/03/manual_oct2023.pdf
 - ② 東京大学科学研究行動規範
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/ethics/index.html>
- ・修士学位論文口述試験は、必ず受験しなければならない。
 - －実施日時・方法を含め、詳細については、所属コースに確認すること。

(2) 「修士学位論文題目」

- ・指導教員の承認を得た上で、提出を行うこと。
- ・「修士学位論文題目」は、指導教員の十分な指導を受け、確定したものについて、提出を行うこと。
- ・「修士学位論文」及び「修士学位論文要旨」は和文又は英文で作成することが可能であるが、「修士学位論文」を英文で作成する場合、「修士学位論文題目」も英文とする。なお、題目の後に括弧で和訳をつけることができる。
 - －今回提出後、「修士学位論文題目」を変更することはできないので、十分注意すること。
 - －今回提出を行う「修士学位論文題目」と、以降提出を行う「修士学位論文」「修士学位論文要旨」は、一字一句、完全に同一の表記とすること（和訳を含む）。
- ・その他、注意事項は、次のとおり。
 - －全体に、「」等はつけないこと。
 - －題目が和文のみで副題がある場合、改行の上、—○○○○○—とすること。（—は、全角ダッシュ記号1つとすること。）
 - －□・□□□□の有無に至るまで検討すること。
 - －題目が英文で副題がある場合、主題の後ろに半角コロンの半角スペースを入れ、続けて副題を記載することを基本とする。また、英文の題目の下に括弧で和訳を付ける場合、和訳部分の副題の表記については、題目が和文のみで副題がある場合の取扱いを基本とする。
(ただし、コースまたは分野により、当該部分を含めた英文の表記や英文の題目の下に括弧で和訳を付ける場合の表記など、細かい取扱いが異なっている場合があるため、最終的には、指導教員に確認の上、承認を得たものを提出すること。)

参考例：題目が英文で副題があり、かつ、和訳を付ける場合。

*****Title*****. *****Subtitle*****

(○○○○主題○○○○

—□□□副題□□□—)

- －上記は、修士論文の表紙に記載する題目の副題に係る取扱いを明記したものである。
(別途、研究業績等に記載する場合には、これに縛られなくてよい。)

(3) 「修士学位論文」「修士学位論文要旨」

	提出媒体・部数
「修士学位論文」	電子ファイル (PDF ファイル) ・1 部
	・「修士学位論文」の電子ファイルは、必ず PDF ファイルで提出すること。 ・電子ファイル (PDF ファイル) 名は、修士学位論文・学籍番号・学生氏名とすること。 <例>修士学位論文・23216099・本郷弥生.pdf ・電子ファイル (PDF ファイル) の1 ページ目 (表紙) は、この掲示の4 ページ、「修士学位論文」作成要領等を参照の上、作成すること。
「修士学位論文要旨」	電子ファイル (PDF ファイル) ・1 部
	・「修士学位論文要旨」の電子ファイルは、必ず PDF ファイルで提出すること。 ・電子ファイル (PDF ファイル) 名は、修士学位論文要旨・学籍番号・学生氏名とすること。 <例>修士学位論文要旨・23216099・本郷弥生.pdf ・この掲示の4 ページ、「修士学位論文要旨」作成要領等を参照の上、作成すること。

※「修士学位論文要旨」を伴わない「修士学位論文」は、論文審査の対象とはならないので、必ず両方の提出を行うこと。

(4) その他

- ・上記、UTOL による提出方法の詳細については、2025 年 10 月下旬頃、別途掲出を行う。
- ・希望する場合には、「修士学位論文」を「東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)」において公開することができる。公開にあたっては、指導教員の同意が必要となる。「東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)」については、下記を参照のこと。
<https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/about>
- ・公開を希望する場合、以下の学生支援チームメールアドレスに事前に連絡のうえで、所定の「許諾書」(本人及び指導教員の自筆署名が必要)を学生支援チーム窓口へ提出すること。
- ・所定の「許諾書」については、在学生向け WEB サイト内の「各種様式：大学院生用」より確認のこと。
<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/procedure/>

教育学研究科学生支援チーム

E-mail gakuseishien.p@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

TEL 03-5841-3908

修士学位論文・修士学位論文要旨作成要領

(1) 「修士学位論文」作成要領等

- 和文または英文で作成してください。
- A 4 判とし、表紙には修士学位論文題目・専攻名・コース名・氏名を付してください。なお、英文で作成する場合、題目の後に括弧で和訳をつけることができます。
- コースで別に指示がある場合には、それに従ってください。

(2) 「修士学位論文要旨」作成要領等

- 提出された「修士学位論文要旨」を原稿として冊子を作成する予定ですので、次に指定する書式で、ワードプロセッサを用いて作成してください。
- 当該冊子に掲載される際はモノクロとなるので、図表等を用いる場合は注意してください。
- A 4 判とし、左右余白 25mm・上部余白 20mm・下部余白 20mmとしてください。
- 和文又は英文で作成してください。
- 和文の場合は 4,000 字以内、英文の場合は 2,000 語を目安（いずれも 3 枚以内）とし、1 枚目は下記の記入例のとおりに作成してください。なお、2 枚目以降は、1 行目から本文を記入してください。なお、「修士学位論文」を英文で作成する場合、題目の後に括弧で和訳をつけることができます。
- ページ数は印字しないでください。

【1 枚目記入例①】

修士学位論文題目
— 副 題 —
(一行挿入)
○○○○専攻
○○○○コース
氏名
指導教員 ○○○○教授
(一行挿入)
本文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【1枚目記入例②】

修士学位論文題目	
(和	訳)
(一行挿入)	
○○○○専攻	
○○○○コース	
氏名	
指導教員	○○○○教授
(一行挿入)	
本文	
	
	
	
	

〔その他〕

- －今回提出後、「修士学位論文題目」を変更することはできないので、十分注意すること。
- －今回提出を行う「修士学位論文題目」と、以降提出を行う「修士学位論文」「修士学位論文要旨」は、一字一句、完全に同一の表記とすること（和訳を含む）。
- －論文題目は、全体に「」等はつけないこと。
- －題目が和文のみで副題がある場合、改行の上、—○○○○○—とすること。（—は、全角ダッシュ記号1つとすること。）
- －□・□□□の有無に至るまで検討すること。
- －題目が英文で副題がある場合、主題の後ろに半角コロンと半角スペースを入れ、続けて副題を記載することを基本とする。また、英文の題目の下に括弧で和訳を付ける場合、和訳部分の副題の表記については、題目が和文のみで副題がある場合の取扱いを基本とする。
(ただし、コースまたは分野により、当該部分を含めた英文の表記や英文の題目の下に括弧で和訳を付ける場合の表記など、細かい取扱いが異なっている場合があるため、最終的には、指導教員に確認の上、承認を得たものを提出すること。)